

自然保護の動向

見倉のトチノキ林の保護

中魚沼郡津南町見倉のトチノキ林内に防災のための土石留工事用道路が通るとの情報からその中止を新潟県農林水産部林政課にお願いしたところ、工事予定が変更され、見倉のトチノキ林は自然状態で保護することになりました。関係者の深い御理解に厚く御礼申し上げます。

見倉のトチノキ林の保護については、次のような経緯や理由があり、今後とも林内に道路を通すことなく自然の推移にまかせる配慮が必要と考える。

1. この地域は、新潟県自然環境保全地域の指定相当の結論をもとに、飯山営林署に同意をお願いした経緯がある。自然環境保全地域は人手を加えずに、自然の推移に委ねることが基本的な考えである。現存するトチノキ林としては、県内唯一のものであり、トチノキの最大の幹径をもつ樹が生育しているところである。
2. トチノキ林の成立は、何百年の経過を経て来ているし、また、たえず崩壊を繰返すこのような地形であるからこそブナでなくトチノキが生育して樹林を形成したと考えられるので、局所的に人手を加えても崩壊を食い止めること

は不可能であろう。

3. 自然に形成された樹林は、林業の立場からも一つの貴重な見本林であり、その樹林に人工を加えることは、自然に形成された現状を乱すことになると思われるので、自然の推移にまかせることが肝要である。工事用の道路建設はこの見本林に大きな打撃を与えるであろう。
4. この地域は単にトチノキ林だけでなく、このような崩壊を繰返すところに生育する植物がみられる。例えば、土石留工事予定地には、クロイチゴ、アサノハカエデなど県内でも比較的稀産の植物が生育している。また工事用道路を予定している樹林には、貴重な植物（絶滅危ぐ種）が生育している。このような崩壊地であるからこそ生育している植物であり、土石留工事はこのような植物の生育にも影響を与える。
5. 土石留工事予定地の近くにある風穴には、県内ではここだけに分布する植物があり、また多くの高山性の植物が下降して生育している極めて貴重なところである。単に風の吹出し口だけでなく、この風穴をとりまく周辺は、広い範囲で保護することが肝要である。
6. 土石留工事予定地（小沢）を中心に土石が扇状に広がっているが、すべてがこの沢からの落石による結果ではない。この林の上は、たえず落石の危険のある急傾斜地、



写真 トチノキの巨樹（樹幹と全景）

あるいは崖となっているので、単にこの小沢だけの土石留工事で落石を防止することは出来ない。現に昨年春この小沢を訪れた際、沢以外から落石があり、危険な状況に遭遇した経験がある。

7. 上記のようにこの地域は耐えず落石の危険があるので、むしろ立入を禁止する対策が必要である。
8. 工事用の道路は建設終了後でも人が容易に入り易くなり、人の導入口の役割をになうことになり、周辺の自然が荒らされることに関連するばかりでなく、落石による被害の発生の可能性も大きくなる。被害が生じた場合、道路を作ったことの責任を問われることも皆無ではないと考える。(一旦車の通れる道路を作った後、工事終了

後、侵入禁止してもその道路沿いに人が入りやすくなり、現状よりも多くの人を訪れる可能性が大であり、危険度も増す。

9. 観光目的に工事後の道路に使用するような計画がもしあるとすれば、トチノキ林の保護に逆行することになる。危険もあり、大きなトチノキの観光目的の行為は避けるべきであろう。
10. 工事の目的が、下方の林道を通る車や人のためであるならば、林道の山側に沿って落石を防ぐコンクリート壁を建設して林道と崩壊地とを隔てる方が、土石留工事を行なうより経費が安く済むであろう。(石沢 進)

弥彦山脈植物友の会

『物部の 八十少女らが 汲みまがふ 寺井の上の 壺香子の花』

越中国守、大伴家持(万葉集[4143] 750年頃)に歌われたカタクリの花は、一説に今の(コシノ)コバイモとの意見もあります。ともに雪国の春を実感する喜びの象徴であります。

1200年余の悠久の時を経てカタクリは今年も、そして来年も咲き続けるでしょう。私たちの代で、この自然の恵みたる輪廻の輪を断ち切る事のないよう、未来永遠に豊かな自然を引き継ぎたいとの願いを込め、また、弥彦山、カ=角田山、タ=多宝山、ク=国上山、リ=輪廻を掛言葉とし、当会の名前と、会誌名『カタクリの詩』の由来としています。

“植物を愛し、大事に思い、植物をありのままに理解したいと願う方ならどなたでも参加してください”との呼び掛けで、1992年春に発足して今年で3年目になります。

設立者の一人、刈屋 寿氏の熱心な植物指導のもと、行事と、植物勉強会を組み合わせ、ほぼ月1回のペースで活動しています。山菜の会、ソーメン流しの会、芋煮会、バーベキュー会など、いつしかグルメの会も兼ね、抹茶点前も特徴としております。参加者も老若男女幅広く、家族ぐるみのファミリーな構成です。今年度の勉強会のテーマとして、角田山登山道に沿って、順次四季毎に植物分布案内書を纏めたく、一年二コースを調査目標にしたいと考えております。

人はその器に従うと言葉も在ります。自然を等身大そのままに把握する事から、おうぎょうでない、私たちに出来得る自然保護について模索して行きたいと考えております。会の趣旨に共感された方々のご参加をお待ち致しております。

『花をのみ待つらん人に山ざとの雪間の草の春を見せばや』

『年々歳々花相似 年々歳々人不同』

弥彦山脈植物友の会

西蒲原郡岩室村大字和納1966-56

TEL 0256-82-4368 横内 忠紀